

小学校中学年のキャリア教育における課題解決能力を高める指導の工夫

～生活課題を解決するワークシートの活用を通して～

キャリア教育班 柵木秀樹（小学校教諭）

1 主題設定の理由

本校児童の実態

指示されたことには取り組むが、主体的な活動が見られない。
積極性が感じられず、おとなしい児童が多い。

将来が心配



生活を振り返り、自ら課題を設定できる児童になってほしい。
自ら設定した課題に継続的に取り組むことができる児童になってほしい。

キャリア教育の
必要性

キャリア教育における「課題解決能力」を高める
(国立教育政策研究所「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」4領域8能力の一つ)

児童の発達段階を考慮して「生活課題」に限定して実践

課題解決に向けて主体的に取り組む児童の育成

2 授業実践

課題解決能力 = 課題を発見する力 + 課題を解決する力

課題を発見する力

生活ルール35（「群馬の子供のためのルールブック50」参照）
をチェックして、自分の課題を発見する。

発見

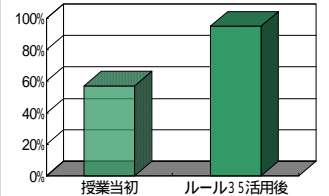
設定

取り組み

生活ルール35をチェックしてみよう。(抜粋)	いつでもできる	大体できる	少しできる	できない
1 食器の後片付けがきれいにできる				
2 外から戻ったら、手洗い(冬はうがい)をしている				
3 朝・昼・晩と一日3回歯みがきをしている				
4 朝マラソンは進んで走ることができる				
5 トイレから出るときは靴をしっかりとそろえている				
6 宿題や授業のわずれものはしない				

チェック

課題を発見できた児童



このサイクルをくりかえす(2サイクル)

課題を解決する力

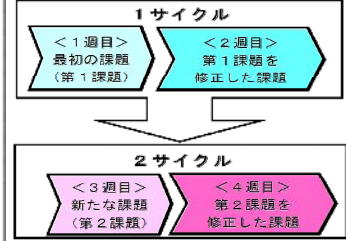
自分発見ノートを使い、自分の生活課題を振り返る。

自分発見ノートとは

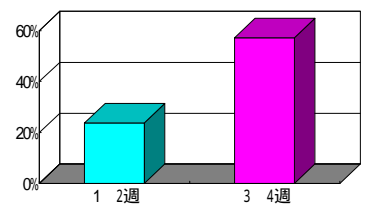
生活めあて発見シート	生活めあてふりかえりシート
<生活課題> <チェック表>	<修正した生活課題> <チェック表>

帰りの会に
チェック
チェック表
に他者の評価
を取り入れ、
得点化

<取組の流れ>



第1課題(1 2週)及び第2課題(3 4週)
チェックシートによるポイントが上がった児童の割合



児童のめあての変容

児童	1週目のめあて	2週目のめあて
A	毎日ハンカチを持ってきて、手をあらってふく	毎回夜に目立つところにハンカチを置いておいて、朝それを学校に持っていく
B	ろうかを走らない	ろうかに出る前は教室で止まってからでる
児童	3週目のめあて	4週目のめあて
A	朝マラソンを毎日する	毎日朝マラソンをして、20分休みと昼休みも走る
B	忘れものをしない	忘れものをしないように、ねる前にかみかみチェックする

3 成果と課題

課題を発見できなかった児童が「生活ルール35」を活用することで、自分の課題を発見し、めあてを立てることができるようになった。
自分発見ノートの活用により意欲が向上し、「自分に合った具体的なめあて」をつくり継続的に取り組むことができた。
自己評価が苦手な児童に対する支援方法および振り返り活動の方法を工夫する必要がある。